

開講科目名 / Course	看護アセスメント学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苦 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程の理論を理解することを目的とする。対象者の健康問題と看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の意義や目的について説明できる。</li> <li>2. 対象理解のための情報収集、根拠に基づいたアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断と優先順位の決定、看護計画、実施、評価について説明できる。</li> <li>3. 事例を通して、看護過程の展開を実施できる。</li> </ol>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 看護過程の意義、概要</li> <li>02. 看護過程の展開：アセスメント（1）主に呼吸機能に関するアセスメントの方法</li> <li>03. 看護過程の展開：アセスメント（2）主に循環機能に関するアセスメントの方法</li> <li>04. 看護過程の展開：アセスメント（3）主に消化機能に関するアセスメントの方法</li> <li>05. 看護過程の展開：アセスメント（4）主に運動機能に関するアセスメントの方法</li> <li>06. 看護過程の展開：全体関連図の作成、統合の方法</li> <li>07. 看護過程の展開：看護診断</li> <li>08. 看護過程の展開：計画、実施、評価</li> <li>09. 事例による個人ワークのまとめ（1）発表</li> <li>10. 事例による個人ワークのまとめ（2）フィードバック</li> </ol>	
その他の授業の工夫	<p>講義と個人ワーク（事例を用いた看護過程の展開）を並行しながら実施することで、各々の学生が、看護過程のプロセスとその考え方、理論の活用などについて、根拠に基づき理解することができる。</p> <p>病像がシンプルな事例を用いて、紙面で与えられた様々な情報をNANDA-Iの13領域に分類し、アセスメントから計画立案（評価を含む）まで行うことで、初学者にとって看護過程の一連の流れをイメージしやすくしている。</p> <p>なお、「ヘルスアセスメント」の演習内容と連動させて、1事例について集中的に取り組むことで、学習の効率を高める工夫をしている。</p>	
時間外学修	<p>必要に応じて教員からの指導やフィードバックを受けながら、1事例の看護過程の展開（アセスメント、看護診断、計画立案（評価を含む））を行う。</p> <p>事前学修：事例課題の読解（1h） 個人ワーク（15h 3h×5回）</p> <p>事後学修：フィードバックによる修正など（3h）</p>	
評価方法と評価割合	<p>個人ワークの提出が筆記試験の受験資格となる。</p> <p>筆記試験（90%）、グループでの取り組みや受講態度（10%）。</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2]（医学書院）</p> <p>NANDA-I看護診断定義と分類2024-2026（医学書院）</p> <p>看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版（Gakken）</p>	
参考書	<p>看護がみえる 看護過程の展開（メディックメディア）</p> <p>根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版（南江堂）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三笥美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	